

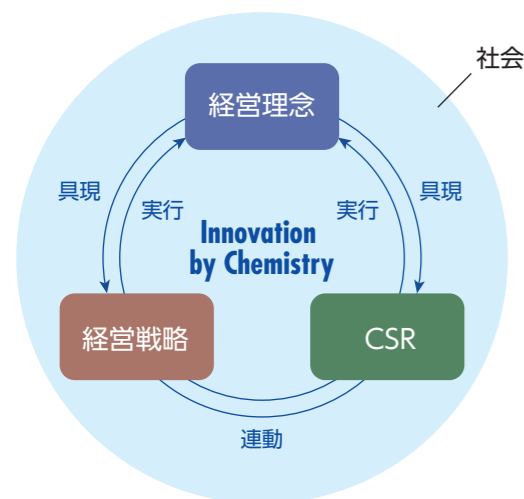
東レグループの持続的発展を実現するためには、事業活動のすべての側面でCSRを推進することが不可欠であり、「事業拡大とCSRは車の両輪」と考えています。経営戦略とCSRの連動を通じ、すべてのステークホルダーにとって高い存在意義をもつ企業集団を目指します。

東レグループは、2002年から10年先を見据えた長期経営ビジョンと3～5年間の中期経営課題を策定し、順次見直しつつ経営改革を推進してきました。2011年4月からは「持続的に収益を拡大する企業グループ」を目指す経営活動の統一指針として長期ビジョン“AP-Growth TORAY 2020”を開始し、2014年4月からは第2ステージとして中期経営課題“プロジェクトAP-G 2016”をスタートしました。

中期経営課題“プロジェクトAP-G 2016”では、「成長分野、成長国・地域での事業拡大」「競争力の強化」を基軸とし、新たな視点を盛り込んだ8つの基本戦略を掲げています。

東レグループは、グローバルな事業展開を進め、リスクを最小化しつつ成長機会を確実に捉えるとともに社会的責任を果たす企業としてCSRを経営の根幹に据えており、長期経営ビジョン“AP-Growth TORAY 2020”の目指す姿にはCSRの3つの重要な要素が含まれています。また、中期経営課題“プロジェクトAP-G 2016”においても、「安全・防災・環境保全」「企業倫理・法令遵守」をはじめとしたCSRの推進は東レグループ全体の最優先課題であることを表明しています。

図2 経営理念・経営戦略・CSRの一体的推進



取締役 管理・調達部門長 角辻 明

CSR責任者からの報告

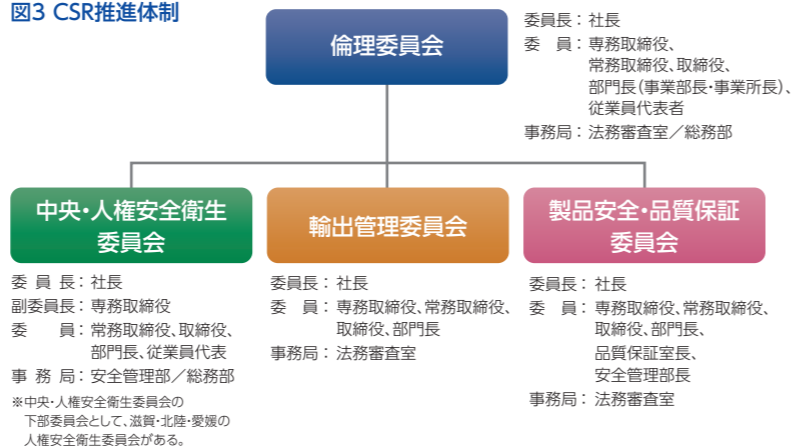
関西ティーイーケイ(株)は、東レグループの一員として、CSRの推進を企業理念の実現そのものと考え、課せられた使命を果たす経営上の最優先課題のひとつとして取り組んでいます。

東レグループは、独自に策定したCSRガイドライン・CSRロードマップに基づき、各推進責任者および取り組み目標を明確に定め、CSR活動を進めています。当社も2016年度から自社固有の目標を織り込んだCSRロードマップを新たに策定し、持続的にCSR推進のPDCAを回す体制を整えて、活動を推進しています。

関西ティーイーケイ(株)は、経営基本方針に掲げたステークホルダーに本業を通じて確かな価値を提供して、社会的課題の解決に積極的な役割を果たしながら、すべてのステークホルダーの期待に応える企業となるために行動していきます。

関西ティーイーケイ(株)では、CSRに関する重要課題を審議するために、全社委員会のひとつとして最上位に「倫理委員会」を設置しています。倫理委員会は、3つの全社委員会を横断的に統括しており、組織全体でCSRを推進する体制を構築しています。

図3 CSR推進体制



※: リスクマネジメント委員会は倫理委員会と併設するが、リスク内容により他の全社委員会との併設も可とする

中期経営課題(2017-2020年度)

Engineering Manufacturing Maintenance
— 技術の力で未来を拓く —

CSRを基本とした企業経営	トータル完全無災害の達成と継続 ①環境事故ゼロ・災害ゼロ・交通加害事故ゼロ	企業倫理・法令遵守・リスク管理の強化 ①CSR意識と実践力の強化 ②法令遵守・輸出管理・製品安全の徹底 ③情報セキュリティ管理の徹底 ④規程・規則更新 ⑤BCP対策の実行	
	事業拡大戦略	2020年度売上高	
エンジニアリング事業(E)	プラント事業 ①成長分野への事業展開 ライフラインバージョン(LI)分野の事業拡大、営業基盤の確立 ②海外への事業展開 ③パートナーベンダー連携による業務遂行枠拡大	東レ設備事業 ①グリーンイノベーション(GR)事業の展開・拡大	88億円
マニュファクチャリング事業(M)	製作事業 ①新規部品製作対応による事業拡大	制御盤事業 ①東レグループからの受注拡大 ②新規お客様開拓・ニッチ領域拡大 ③商品開発・新市場開拓	10億円
メンテナンス事業(M)	①提案型保全の拡大・推進 ②省エネ・設備診断など業務枠の拡大	③東レ設備増への的確な対応	67億円
経営基盤の強化	①透明感のあるマネジメントの促進 ②技術人材・後継人材の確保	③人材育成・人事施策の充実 ④グループ購買の見直し・調達機能の最適化	⑤品質向上(ISO9001 2015年版への対応) ⑥TPM活動の活性化

関西ティーイーケイ(株)のCSRの推進体制

CSRガイドライン

東レグループでは、下記の10項目からなるCSRガイドラインを策定しています。そして各項目を企業理念に基づく「新しい価値の創造」と、CSR推進において広く普及している「ガバナンス」「社会」「環境」の4つのカテゴリーに分類しています。

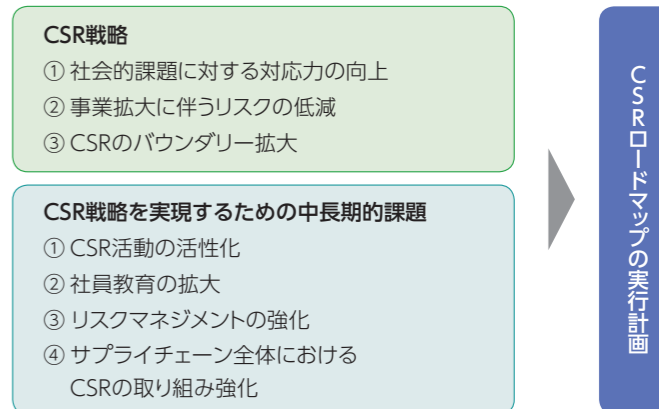
関西ティーイーケイ(株)でも、CSR活動の推進を経営理念の実現そのものと考え、このガイドラインに基づき計画的にCSR活動を進めています。

CSRガイドライン4つのカテゴリーとの対応

新しい価値の創造	事業を通じた社会的課題解決への貢献
ガバナンス	企業統治と経営の透明性 企業倫理と法令遵守 リスクマネジメント
社会	人権推進と人材育成 製品の安全と品質 サプライチェーンにおけるCSRの推進 コミュニケーション 社会貢献活動
環境	安全・防災・環境保全

CSRロードマップ

関西ティーイーケイ(株)では、本年度初めて2020年度までのCSRロードマップを策定し、CSR活動を組織的かつ計画的に推進しています。CSRロードマップは、「CSR戦略」「CSR戦略を実現するための中長期的課題」「CSRロードマップの実行計画」から構成しています。



CSR 戦略

社会的課題に対する対応力の向上 ■事業拡大に伴うリスクの低減 ■CSRのパウンダリー拡大

CSR 戦略を実現するための中長期的課題

CSR活動の活性化 ■社員教育の拡大 ■リスクマネジメントの強化 ■サプライチェーン全体におけるCSRの取り組み強化

CSR ロードマップの実行計画

	CSRガイドライン	推進フォロー 【全社会議・委員会】	CSRロードマップ目標 (2016-2020年度)	KPI(重要達成指標)	2020年度目標値	2016年度			2017年度			参照 ページ
						目標	実績	評価	目標	実績	評価	
新しい価値の創造	事業を通じた社会的課題解決への貢献 気候変動の緩和をはじめとする地球規模の環境問題への対応や医療の質向上、医療現場の負担軽減、健康・長寿に貢献するといった社会的課題にソリューションを提供します。	【経営会議】	①「グリーンイノベーション」「ライフイノベーション」分野に重点を置き、最先端の技術の活用によって、社会的課題の解決に貢献します	① グリーンイノベーション事業売上高(億円) ② ライフイノベーション事業売上高(億円)	① 16億円 ② 12億円	12億円 5億円	18.7億円 6.6億円	○ ○	13億円 6億円			P. 11 ~ 12
ガバナンス	企業統治と経営の透明性 企業が果たすべき社会的な責任の一環として、経営システムや制度を常に見直し、内部統制の強化、適時適切な情報開示に努めます。	【倫理委員会】	① 経営の透明性を強化し、ステークホルダーの意見を経営に反映させつつ、説明責任を果たします ② CSRマネジメントシステムを整備し、CSR教育の拡大等を通じてCSR活動を活性化します	① CSR全社教育の実施(完/未完) ② 役員・職場代表との懇談会開催回数(回)	① 完 ② 年6回以上	完 年6回	完 年6回	○ ○	完 年6回			P. 13 ~ 14
	企業倫理と法令遵守 社会からの信頼を獲得すべく、すべての役員と社員が常に公正さと高い倫理観、責任感を持ち、法令遵守の意識に基づいた行動を徹底します。	【倫理委員会】	① 重大な法令・通達違反の件数ゼロを達成します ② 各国・地域の事情に合わせたコンプライアンス活動を推進します ③ 企業倫理・法令遵守に関する啓発・教育活動を強化します	① 重大な法令・通達違反件数(件) ② 企業倫理・法令遵守e-ラーニングの実施(完/未完) ③ 重要法令の情報発信・教育の実施回数(回)	① 0件 ② 完 ③ 年4回以上	0件 完 4回以上	1件 完 10回	× ○ ○	0件 完 4回以上			P. 15 ~ 16
	リスクマネジメント 情報セキュリティを含む全社リスクの管理体制を強化します。また、不測の事態が発生した際にも迅速な対応の的確な情報開示が可能なシステムを構築します。	【倫理委員会】	① 全社リスクマネジメント活動を強化し、リスクを確実に低減させます ② 大規模地震、新型インフルエンザに対するBCPを整備し、適切に運用します ③ 情報セキュリティ対策を徹底し、インシデント件数を減少させます	① 全社リスクマネジメントの体制設置(完/未完) ② 優先対応リスクの特定(完/未完) ③ BCP緊急対応計画策定(完/未完) ④ 防災訓練・安否確認訓練実施回数(回) ⑤ 情報セキュリティ関連インシデント発生件数(件)	① 完 ② 完 ③ 完 ④ 年2回以上 ⑤ 0件	完 - 完 年2回以上 5件以下	完 未完 完 2回 3件	○ - ○ ○ ○	完 完 完 年2回以上 4件以下			P. 17 ~ 19
社会	人権推進と人材育成 人材の確保と育成、雇用の多様化に取り組むとともに、「社員の雇用を守ること」に努め、かつ人権を尊重し、常に職場環境の改善に努めます。	【中央・人権安全衛生委員会】 【経営会議】	① 人種、性別、学歴、国籍、宗教、身体的特徴などによるあらゆる差別の禁止を徹底するなど、人権を尊重し、実力による公平な登用を行います ② 活力にあふれ、誇りとやりがいのある職場風土を実現します ③ 社員の育成機会を積極的に提供し、意欲的に活躍できる人材の確保と育成を推進します	① 管理職に占める女性比率(%) ② 法定障がい者雇用率達成状況(%) ③ 年休取得率(%) ④ 人権教育・研修の実施(完/未完)	① 3%以上 ② 2.0%以上 ③ 85%以上 ④ 完	- 2.0%以上 79.5%以上 完	0% 1.92% 81.0% 完	- × ○ ○	- 2.0%以上 81%以上 完			P. 20 ~ 22
	製品の安全と品質 製品安全と品質保証の管理体制を強化し、適切な情報提供に努め、安全で信頼性の高い製品を供給します。	【製品安全・品質保証委員会】	① 製品事故ゼロ件を達成します ② 製品安全と品質保証の管理体制を強化します	① 製品事故件数(件) ② 売上高比クレーム費用比率(%) ③ 製品安全・品質保証教育の実施(完/未完)	① 0件 ② 0.1%以下 ③ 完	0件 0.1%以下 完	0件 0.01% 完	○ ○ ○	0件 0.1%以下 完			P. 23 ~ 24
	サプライチェーンにおけるCSRの推進 調達・購買先、買付先、委託加工先、販売先、物流会社と協働し、CSR調達などサプライチェーン全体でのCSRへの取り組みを促進します。	【倫理委員会】	① 重要な取引先(購買先、外注先)に対してCSR調達を要請します ② お客様(販売先)からのすべてのCSR調達アンケートに対応します ③ 東レエンジニアリンググループ全体でCSR調達の体制を整備します	① お取引先の当社CSR調達アンケートへの対応比率(%) ② お客様からのCSR調達アンケートへの対応比率(%)	① 100% ② 100%	95%以上 100%	86% 100%	△ ○	95%以上 100%			P. 24 ~ 25
	コミュニケーション 社員、株主・投資家、取引先、消費者、地域社会、NPO、政府・行政、マスメディアなど各ステークホルダーとの対話と協働を促進します。	【倫理委員会】	① 「ステークホルダーとの対話に関する基本方針」にのっとり、ステークホルダーの満足度を向上させます ② 各ステークホルダーとの対話と協働を適時適切に経営行動へ反映させます	① コーポレートサイト閲覧数(PV/月) ② ニュースレター発行(毎月)	① 16,000 PV以上/月 ② 毎月発行	8,000 PV以上/月 毎月発行	10,270 PV/月 毎月発行	○ ○	10,000 PV以上/月 毎月発行			P. 25 ~ 26
	社会貢献活動 良き企業市民として、地域づくりや未来世代育成に役立つ活動をはじめとした社会貢献活動を推進します。	【倫理委員会】	① CSR活動とのつながりを意識し、「東レグループ社会貢献方針」にのっとり、教育・環境・地域・社員を重点領域として、自主的かつ継続的に社会貢献活動を行います ② 当社の強みや地域の特性を活かし、質の高い教育支援に取り組みます	① 地域社会貢献活動を行った従業員数(人) ・スポーツ振興 ・教育・環境 ・地域の一員	① 30人以上 ・15人 ・5人 ・10人	15人以上 5人 5人 5人	19人 8人 3人 8人	○ ○ △ ○	20人以上 8人 5人 7人			P. 27
環境	安全・防災・環境保全 原材料の調達から製品の製造、供給、廃棄に至るまでのすべてのプロセスにおいて、社会と社員の安全と健康を守り環境保護に努めます。	【中央・人権安全衛生委員会】	① 「安全の基本」を明確にし徹底して守り、「安全考動」を実践して災害防止に努めます ② 「東レグループ安全・衛生・防災・環境活動方針」に基づいた一元的な取り組みを推進します ③ 東レグループ全体で「第5次環境中期計画」(目標達成年度2020年度)を推進し、目標を達成します	① 重大災害件数(件) ② 世界最高水準の安全管理レベル達成(目標:休業度数率0.05以下) ③ 火災・爆発事故件数(件) ④ 環境事故件数(件) ⑤ CO ₂ 大気排出量削減(%) (2010年度比) ⑥ 廃棄物リサイクル率(%) ⑦ フロン類充填業務用エアコンの点検(回)	① 0件 ② 0.05以下 ③ 0件 ④ 0件 ⑤ 10%以上減継続 ⑥ 99%以上 ⑦ 年4回以上	0件 0.05以下 0件 0件 10%以上減継続 97.0%以上 年4回以上	0件 0.00 0件 0件 31.9% 99.3% 年4回	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	0件 0.05以下 0件 0件 10%以上減継続 98%以上 年4回以上			P. 29 ~ 33

評価: ○ 目標達成 △ 目標に対し50%以上達成 × 目標に対し50%未満の達成